

# 佐藤亜紀

HITOkumalab代表  
一般社団法人HAMADOORI13事務局  
元大熊町復興支援員コミュニティ支援担当

大熊町在住。  
千葉県出身。母親の実家が双葉町。小さいころから何度も通った双葉町は「自分の田舎」。

2017年には大熊町民と結婚し、  
大熊町のコミュニティ支援、文化、伝統芸能や農業に浸る日々を送る。  
大熊町での暮らしについて、毎日発信中。

twitter  
<https://twitter.com/310akiokuma>  
note  
<https://note.com/akisatookuma>



2014年～大熊町復興支援員コミュニティ支援担当（～2021年3月まで）  
避難先にてばらばらに暮らす町民のつながりの再構築（組織化支援）、  
伝統芸能保存継承支援、90歳ヒアリング活動、  
大熊町内イベント企画運営 等

2019年 4月10日の避難指示解除より大熊町在住。

2021年～HAMADOORI13事務局（福島県浜通りの広域連携、若者支援事業 等）  
OkumaLead合同会社業務執行社員  
HITOkumalab（ヒトクマラボ）代表

会員募集中!

# 一般社団法人HAMADOORI13は、

福島県浜通り13市町村の民間の浜通り愛あふれる地元青年たちが中心となり  
広域地域連携を通して『持続可能な経済づくり』『次世代に向けた人材育成』を  
行っていく団体です。

地元中小企業の代表者が多数在籍するHAMADOORI13。  
あなたも是非仲間になってください!



会員登録はこちらから→



福島県浜通りで  
挑戦する若者たち

Phoenix Project

次世代の若者たちの起業および新規事業活動を、  
福島県浜通りの現若手リーダーたちが全力で支援する  
「HAMADOORIフェニックスプロジェクト」。

補助金 1,000万円 未満/年額  
支援期間 最長 3年間

第2期募集期間  
2022年6月1日~7月29日 17時まで

お問い合わせ先 一般社団法人HAMADOORI13事務局  
E: hamadoori13@gmail.com https://hamadoori13.or.jp/

HAMADOORI13 (はまどおりきーりん) は、  
福島県浜通り13市町村の民間の浜通り愛あふれる地元青年たちが中心となり、広域地域連携  
を通して『持続可能な経済づくり』『次世代に向けた人材育成』を行っていく団体です。  
地元中小企業の代表者が多数在籍するHAMADOORI13。  
このプロジェクトはHAMADOORI13が持つ「浜通り13市町村の地元コミュニティ・ネットワーク」が  
強みです。私たちが並んで応援するフェニックスプロジェクト。ご応募お待ちしております!

※事業費は、公益財団法人東北社会福祉財団から助成を受けています

HAMADOORI13では、取り組みのひとつとして  
若者起業支援を行っています。

HAMADOORIフェニックスプロジェクト  
福島県浜通りを「チャレンジできる場所」へ!

# 福島県浜通り若者起業支援フェニックスプロジェクト



## 福島県浜通りで 起業する若者<sup>17歳以上</sup>たち

### Phoenix Project

#### 第3期募集

次世代の若者たちの起業および新規事業活動を、  
福島県浜通りの現若手リーダーたちが全力で支援する  
「HAMADOORIフェニックスプロジェクト」。

補助金 1,000万円未満/年額  
支援期間 最長 3年間

第3期募集期間  
2023年2月1日～3月31日  
17時まで

お問合せ先 一般社団法人HAMADOORI13事務局  
✉ hamadoori13@gmail.com <https://hamadoori13.or.jp/>

Twitter & Instagram & facebook  
にてプロジェクト情報を発信中!

HAMADOORI13 (はまどおりさーていーん) は、  
福島県浜通り13市町村の民間の浜通りの繁栄とあふれた地元若者たちを中心となり、広域地域連携  
を通して『持続可能な経済づくり』『次世代に向けた人材育成』を行っている団体です。  
地元中小企業の代表者が多数在籍するHAMADOORI13。  
このプロジェクトはHAMADOORI13の持つ浜通りの広域コミュニティ・ネットワークが  
強みです。私たちが全力で応援するフェニックスプロジェクト、ご応募お待ちしております!

本事業は、公益財団法人東日本大震災復興支援財団の支援を受けています

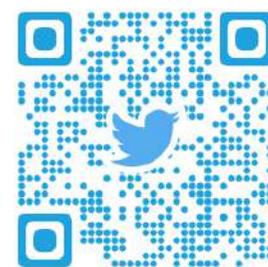
東日本大震災復興支援財団の協力のもと行っているプロジェクト。

補助金 1,000万円未満/年間  
支援期間 最長3年間

第一期応募期間  
2021年8月12日～9月末日  
第二期応募期間  
2022年6月1日～7月29日

第三期応募期間  
2023年2月1日～3月31日

補助金の支援のみでなく、  
HAMADOORI13の伴走支援があること  
が本プロジェクトの特徴。



## フェニックスプロジェクト第一期生(4組)



秋風舎 志賀風夏 (起業地域：川内村)  
古民家カフェ経営、ワークショップ開催、ECサイト運営  

- ・2022年9月17日カフェプレオープン
- ・現在オープンに向け準備中



MARBLiNG 松本奈々 矢野淳 (起業地域：飯舘村)  
商業跡地での農業・文化芸術、ワークショップなどのテナント活用  
地域環境循環をテーマにした「学び」のあるフィールドワーク施設づくり  

- ・2022年5月トレーラーカフェ・ショップオープン
- ・2022年10月コワーキングスペース利用開始
- ・2022年11月19日関係者内覧会



Beyond Camp 野地雄太 (起業地域：浪江町)  
中高生向けの異文化交流プログラムの運営  

- ・第1回開催 2022年4月29日～5月1日@浪江町
- ・第2回開催 2022年8月16日～17日@飯舘村
- ・第3回開催 2022年8月18日～19日@飯舘村
- ・第4回開催 2022年11月12日～13日@樫葉町



haccoba 佐藤太亮 (起業地域：浪江町)  
地元の生産者と連携し、地域でシェアする新しいスタイルのブルワリーをつくる  

- ・現在物件決定に向けて活動中
- ・物件決定後、設備等を搬入し製造開始予定

## フェニックスプロジェクト第二期生(4組)



一般社団法人HorseValue 神瑛一郎（起業地域：南相馬市小高区）  
乗馬体験（乗馬ジム）事業



手塚純教（起業地域：富岡町）  
写真スタジオ事業



大場美奈（起業地域：広野町）  
空き家を活用した滞在型体験事業



Ichido株式会社 渡邊優翔（起業地域：富岡町）  
花卉を利用したブランドカクテル事業

# HITOkumalabの活動 コミュニティ支援



もちつき体験・餅まき・ミニゲーム  
お楽しみいっぱい！  
子供も大人もおいしいお餅を  
頬張りましょう^^

2023年1月8日(日)11:00受付開始

大熊町役場前広場にて

当日は係員の誘導に従って駐車をお願いします

申込はこちらから！

QRコードまたはお電話にて  
お申込みください



お問合せ・お申込み

おおくまコミュニティづくり実行委員会事務局  
0240-23-7101  
070-5581-5939

天候等の理由によりイベント内容・時間が変更になる可能性があります。  
コロナウイルス感染拡大の影響で中止になる可能性があります。

主催 おおくまコミュニティづくり実行委員会



# HITOkumalabの活動 移住サポーター



■ 【大熊町 2月25日、26日】女性起業家・佐藤さんがアテンド。地域交流&伝統芸能体験と、周辺市町村視察ツアー

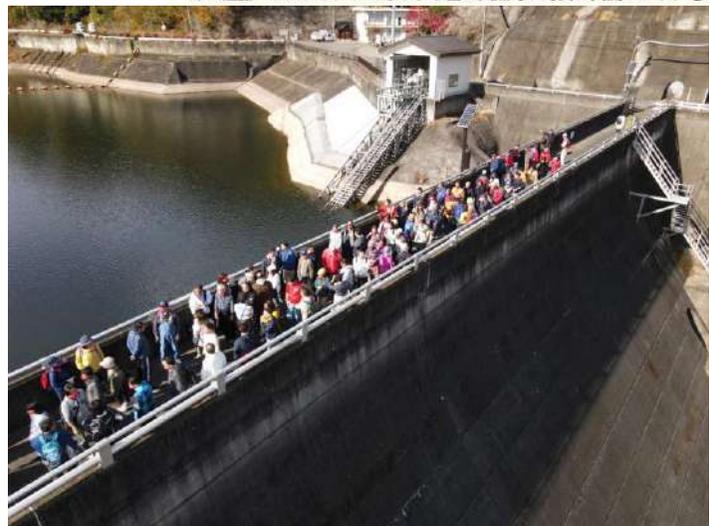
2月25日（土）から1泊2日で開催される大熊町の移住サポーター佐藤亜紀さんと巡る短期移住体験ツアー。

ガイドをしてくださる「ふくしま12市町村移住サポーター」佐藤亜紀さんは若手の女性起業家で、HITOkumalab(ヒトクマラボ)の代表。

“HITOkumalab(ヒトクマラボ)”は、コミュニティ支援やイベント企画運営、伝統芸能保存継承などをおこなっています。その佐藤さんのアテンドのもと、今回は大熊町の町民と交流したり、地域の伝統芸能である太鼓や笛、唄などを体験、及び大熊

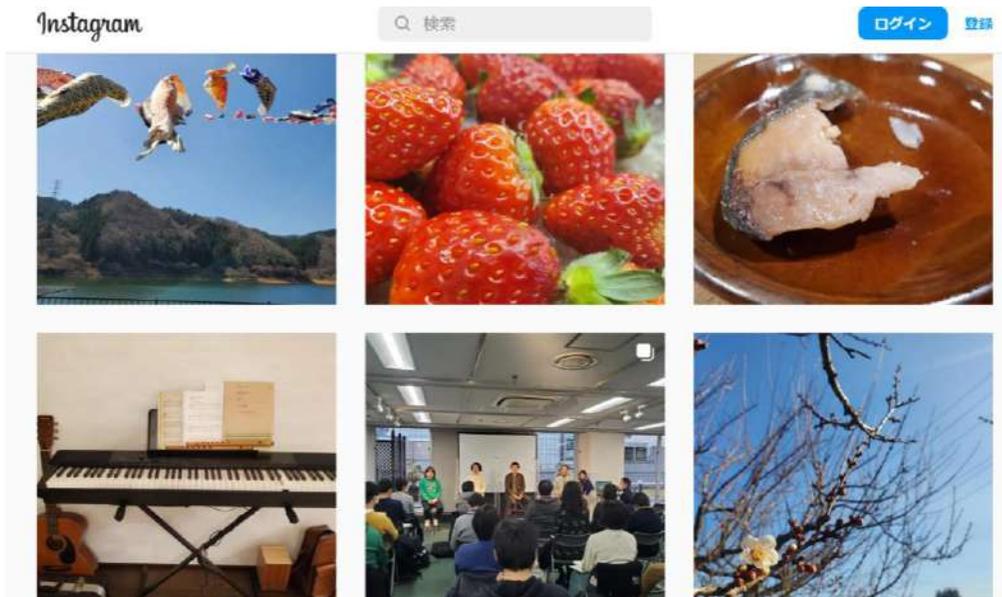


移住サポーターとして大熊町移住体験ツアーを企画、運営。



11月実施のツアーの様子

# HITOkumalabの活動 情報発信



佐藤亜紀(大熊町) @310akiokuma · 1月11日  
大熊町熊川の大先輩直伝の鮭の塩引き！  
完成〜〜！！



8 45 2,459



# HITOkumalabの活動 伝統芸能保存継承



もっともっと知ってほしい、訪れてほしい！

この町の魅力や、  
原発事故の影響で全町避難をしたこと、  
いまだ残る帰還困難区域のこと、  
中間貯蔵施設のこと・・・

福島だけの問題ではない、  
他人事ではない、  
誰もが自分の生活に直結していると  
感じられるきっかけがここにはある。

# 3.11の今がわかる会議

2023年2月11日

大熊町交流ゾーンlinkる大熊「多目的ホール」

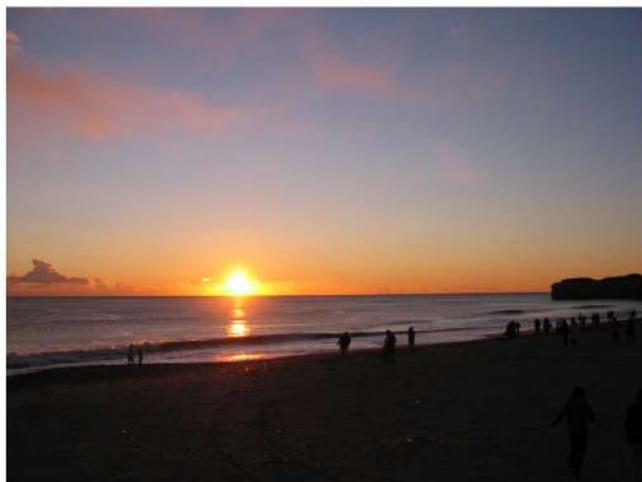
登壇者：渡部キイ子

# 【経 歴】

○出身：福島県双葉郡大熊町熊川地区

## ○経 歴

- ・1978年4月 東京電力（株）福島第一原子力発電所 入社
- ・2019年8月 東京電力HD（株）福島第一原子力発電所 定年退職
- ・2020年2月 大熊町内（大川原地区）の飲酒店に勤務  
～2021年8月
- ・2021年9月 （株）サンアメニティ（交流施設linkる大熊）入社  
大熊町交流ゾーン  
交流施設linkる大熊、温浴・宿泊施設ほっと大熊  
2021年10月17日グランドオープン



# 震災前の大熊町 熊川地区の様



2011年3月11日午後4時59分 （伝承館の展示写真より）  
～大熊町熊川地区～



2020年5月19日午前11時16分 (伝承館の展示写真より)  
～大熊町熊川地区～



# 【経 歴】

○出身：福島県双葉郡大熊町熊川地区

○経 歴

- ・1978年4月 東京電力（株）福島第一原子力発電所 入社
- ・2019年8月 東京電力HD（株）福島第一原子力発電所 定年退職
- ・2020年2月 大熊町内（大川原地区）の飲酒店に勤務  
～2021年8月
- ・2021年9月 （株）サンアメニティ（交流施設linkる大熊）入社  
大熊町交流ゾーン  
交流施設linkる大熊、温浴・宿泊施設ほっと大熊  
2021年10月17日グランドオープン

# 福島第一原子力発電所（震災前）



# 福島第一原子力発電所 (2011年3月の状況)

## 福島第一原発

過酷な事故など起こるはずがないと思われていた原子力発電所が次々に爆発し、火災を起こした。上空から撮影された原子炉建屋は原形をとどめないほど崩れ、不気味な白煙をあげた。事故を深刻化させないため、懸命の注水作業が行われた。冷却に使われた水を保管するための巨大なタンクが第一原発の敷地を埋めている。復旧作業の拠点となった「ヴィレッジの芝生のピッチ」には作業員の宿舎が建設された。(27ページまでの写真は一部を除き、東京電力提供)



4号機では3月22日、高さ50メートル以上のアームも倒れた生コン圧送機による放水が始まった。



小型無人ヘリコプターから撮影した4号機原子炉建屋の格納容器のふた。4月15日。



3月16日に上空から撮影された3号機の原子炉建屋。上部は原形をとどめず白煙が上がる



天井が落ち、床にはさまざまな備品が散らした震災後の事務本館＝3月23日



第一原発の廃棄物処理施設4階から撮影された津波。構内に流入してきた海水はほんの数分でタンクなどを飲み込んだ。水が引くと逆立ちのような形で車が津物の壁に引っかけかかっていた。3月11日午後3時43分ごろ



防波堤を乗り越え、東京電力福島第一原発5号機の津油タンクに連なる津波。3月11日



3月12日午後3時38分頃  
1号機の水素爆発



連続  
福島第一原発  
3号機で水素爆発

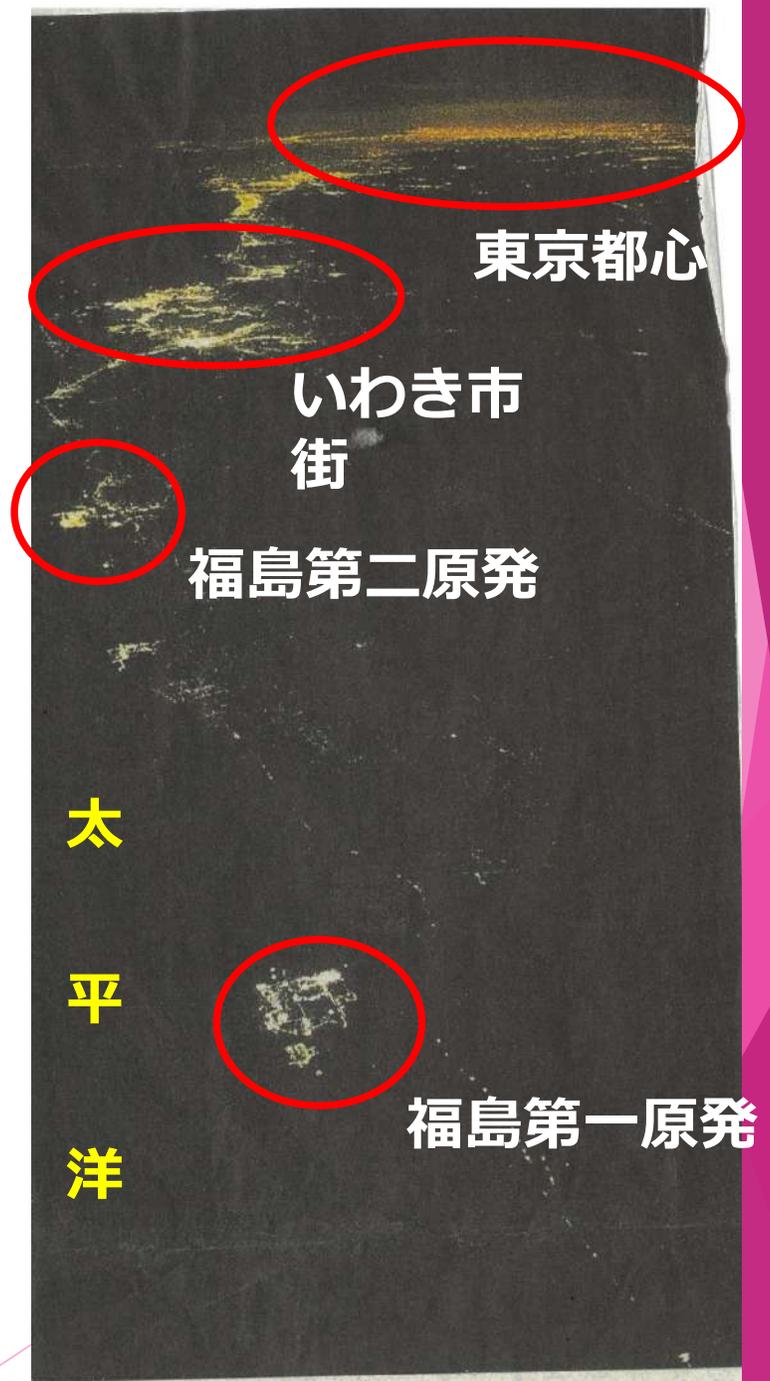
きょう午前11時01分  
3号機の水素爆発

# 福島第一原子力発電所（2022年頃の状況）



# 2012年4月の朝日新聞より

2012年撮影時は、双葉郡の帰宅困難区域となっている周辺は、闇に包まれ、汚染水対策と廃炉作業に追われる福島第一原子力発電所だけが光りを放っている。



# 【経 歴】

○出身：福島県双葉郡大熊町熊川地区

○経 歴

- ・1978年4月 東京電力（株）福島第一原子力発電所
- ・2019年8月 東京電力HD（株）福島第一原子力発電所
- ・2020年2月 大熊町内（大川原地区）の飲酒店に勤務  
～2021年8月
- ・2021年9月 （株）サンアメニティ（交流施設linkる大熊）入社  
大熊町交流ゾーン  
交流施設linkる大熊、温浴・宿泊施設ほっと大熊  
2021年10月17日グランドオープン
- ・2020年7月～2021年7月 大川原再生賃貸住宅に居住
- ・2021年8月～ 大川原第2災害公営住宅に居住

入社  
定年退職

# 大熊町の人口

2011年3月11日時点

人口 11,505  
世帯数 4,235

令和9(2027)年の  
大熊町の人口目標  
**4,000人**

- ・大川原地区・中屋敷地区（大川原周辺）  
**1,400人**
- ・大野駅周辺地区・下野上地区（大野駅周辺）  
**2,600人**

●人のうごき  
(令和4年12月31日現在)

住民基本台帳  
人口 10,002人  
世帯数 3,914世帯

町内居住推計  
人口 950人  
(うち帰還者 183人)

## ●居住の状況

福島市	187
会津若松市	522
郡山市	996
いわき市	4,493
大熊町	408

**人口 950人**

下記、**居住の状況の大熊町「408人」**

+

**町内に居住している人数「542人(\*)」**  
(\*人数は、企業からの報告で町内に居住

している人数(住民登録は、大熊町

以外) **ち帰還者 183人**

震災時大熊町に住民登録があり、避難住民届で「避難先住所」を大熊町にした人数

居住の状況 **大熊町 408人(344世帯)**

上記「**帰還者人数 183人**」

+

「**震災後に大熊町に転入した225人**」  
住民登録を大熊町にされた人数

<参考> (令和4年12月1日現在)

1.復興公営住宅

第1期 48世帯69人、第2期 39世帯55人

2.再生賃貸住宅

38世帯45人

合計169人

# 大熊町大川原地区の過去



復興拠点としての整備を待つ大川原地区

# 大熊町大川原地区の現在



# 震災後の大熊町の模様 (祭り、農業・産業、施設)



# linkる大熊の役割、私の役割

○集う、学ぶ、遊びがコンセプト

○町内、町外からお客様が来館

・施設の案内の中で、「町の紹介」等を通して、大熊町、linkる大熊のファン

になって貰い、再び来町・来館をして貰うように努めている。

・お客様との会話の中にお宝が埋もれている事があり、その内容によりお客様同士を繋ぐことに努めている。

・大熊町に関する勉強会の計画、運営

・イベントの企画、運営

・町等主催のイベントに参加し、地域との交流

(坂下ダムウォーキング、おおがわら会のイベント参加、夏祭り、ふるさとまつり等へ参加)

# 大熊町下野上の復興シナリオ

下野上地区一団地事業の位置図

- ①大野駅西交流エリア  
産業交流施設  
商業施設  
広場等を整備予定)
- ②大野駅東住宅エリア
- ③大野南住宅エリア  
(旧大野病院跡)
- ④原住宅エリア  
(旧梨畑)
- ⑤大熊中央産業拠点



# 大熊町の未来ー 1 (JR大野駅周辺)

JR大野駅周辺の東西南北のストリートビューから (2015年4月頃)



# 大熊町の未来-1 (JR大野駅周辺)

## JR大野駅周辺を東西南北からの撮影 (2023年2月撮影)



# 大熊町の未来—1 (JR大野駅周辺)



(2015年4月頃のストリートビュー)



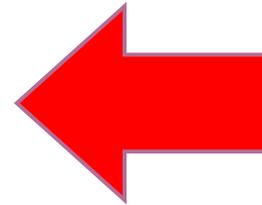
震災前、町の特産品「梨」の梨畑

# 大熊町の未来-2 (大熊町中央産業拠点)



(2023年2月撮影)

# 大熊町の未来-3 (大熊町西工業団地)



### 大熊西工業団地 (2022年9月時点)

大熊町の原風景を活かした憩いの場としての機能も付加した、高機能インフラの工業団地として整備しています。

所在地	福島県双葉郡大熊町大字大川原
アクセス	常磐自動車道 常磐富岡ICまで3km 大熊ICまで3.5km
用途地域	工業地域
状況	造成中(令和5年度一部供用開始)
敷地面積	21.4ha
用地面積	9.2ha
紹介可能面積	4区画(3.4ha)
賃貸単価	60円/㎡(年)
賃貸	賃貸のみ
上水道	引き込み可能
用水	上水道、地下水
排水	単独処理後奥川・E水域

(ha)

- 産業用地
- 緑地
- 調整池

# 大熊町の未来-4 (学び舎 ゆめの森)

建設中 (2023年2月撮影)



完成予想図 (2023年8月竣工予定)



# 町に不足していること、望むこと

- 町民、町外の方が外で交流出来る場がない  
パークゴルフ場、キャンプ場、バーベキューが出来る場所
- 町の予算を町民が潤うような使い方をしてほしい

## 私の想い

- 復興して行く町を見守りたい
- 以前勤務していた福島第一原子力発電所の廃炉を近くで見届けたい

ご清聴ありがとうございました。

### 3. 11 の今がわかる会議 2022

大熊町社会福祉協議会  
福祉係長 志賀 翔一

テーマ：地域コミュニティの現在地-11年目の現状と課題-

#### 1. 町民の居住状況

##### (1) 町民人数（令和5年2月1日現在）

9,981人（4,786世帯）

大熊町 415人（4%）

いわき市 4,486人（47%）

郡山市 989人（10%）

会津若松市 513（5%）

##### (2) 町内居住状況（令和4年11月1日現在）

年齢	公営住宅	再生賃貸	町内1	町内2	合計
20歳未満	5	2	0	8	15
20～30代	21	15	12	133	181
40～50代	19	17	12	45	93
60～70代	47	15	24	8	94
80代以上	16	0	7	5	28
合計	108	49	55	199	411

※町内1：避難前居住地へ帰還された方

※町内2：役場職員及び新規転入者

#### 2. 課題

##### (1) 地域の住民同士のつながり

- ・町民の多くが避難先に自宅再建など自立が進んでおり、町民の生活地域が町内町外と広域になっており、それぞれの地域の状況に応じた支援が求められている。
- ・避難者と避難先住民との壁がまだ残っており、避難者と知られたくなくて地域との交流が乏しい方もいる。
- ・町内では、町民同士の近所付き合いはできているが、コロナ禍もあり地域で一堂に会して交流する機会が少ない。
- ・帰還した町民の中には、町内と避難先の2拠点で生活している方や一時的

に災害公営住宅に入居している方などもおり、地域の一員としての意識が弱く、まとまりを持った活動が乏しい。

#### (2) 町内での社会資源が乏しい

- ・町内の医療や福祉の施設などの資源が乏しいため、町内で今の生活を続けるために自分自身で健康づくり、介護予防など自助の役割が重要になっている。
- ・身体能力の低下などにより、日常生活での移動や買い物が困難になってきた方が増えてきている。病院へ送迎する外出支援サービスや弁当を配達する配食サービスの在宅福祉サービスを実施しているが、制度の枠で対応できない多様な生活課題は地域の住民同士の助け合い、ボランティア活動などの互助が求められている。

### 3. 社会福祉協議会としての取組

#### (1) 見守り生活支援

- ・各方部に生活支援相談員を配置し、町民の生活再建、孤立防止のために、訪問活動を行っている。生活状況や体調などに不調が見られ、今後支援が必要とされる方などを重点的に訪問し、状況の変化に応じて支援に繋がれるように見守りを行っている。
- ・複数の市町村町民が入居する一部の災害公営住宅では、同じく訪問活動を行っている他市町村社協と情報共有を図り、連携した見守り体制を行っている。
- ・町内では、健康維持のために地域交流サロンや認知症カフェを定期的で開催し、介護予防・認知症予防に取り組んでいる。また、町内ではニュースポーツ交流会に併せて体力測定を行っている。体力測定は町民の健康維持の意識を持ってもらうよう継続して行っていく。

#### (2) 地域コミュニティの構築

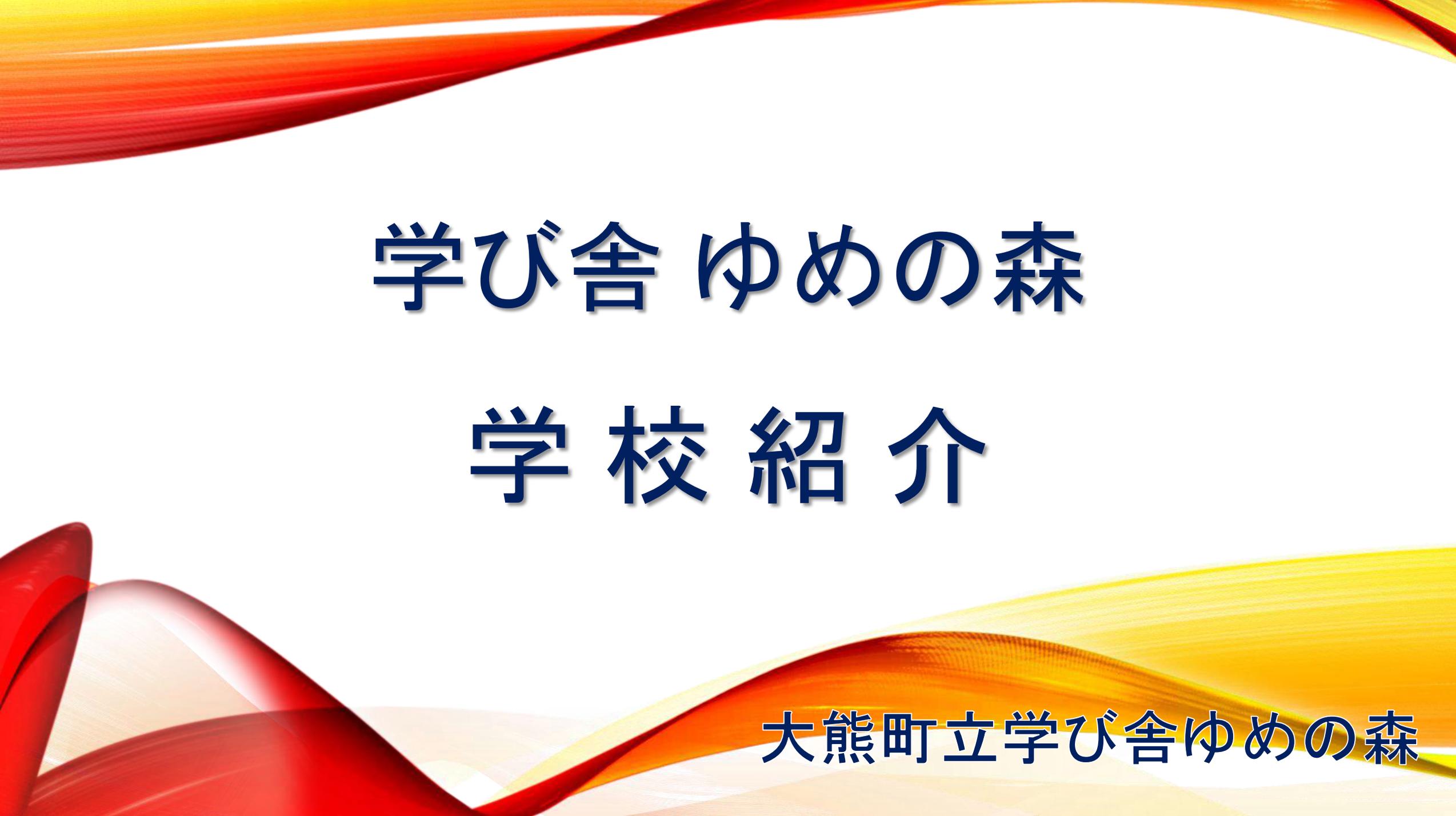
- ・避難先の町民がその地域に暮らす一員として生活が送れるように、誰でも参加できる市町村横断型サロンを避難先社会福祉協議会等と連携して開催し、地域のコミュニティづくりに取り組んでいる。
- ・町内では定期的に地域交流サロンを開催している。また町民のニーズに合ったニュースポーツ大会などの交流事業を開催し、交流の機会づくりに取り組んでいる。

#### (3) 地域の支え合いの仕組みづくり

- ・町内は支援の担い手、社会資源が乏しいため、住民が自身できることをやる、地域でできることは地域で取り組み、地域で孤立させない地域づくりが求め

られている。

- ボランティア活動や環境美化運動など地域づくりを住民と一緒に取り組むことで、地域の関心を高めて住民相互に活動できる体制を整備していく。
- 既存の制度サービスでは対応できない日常生活の移動や買い物などをボランティアで支援するなど、地域住民が協力して解決できる体制を整備していく。



学び舎 ゆめの森

学校紹介

大熊町立学び舎ゆめの森

- 会津若松市にて教育活動を展開し、11年目。
- 令和4年度、学び舎ゆめの森としてスタート(義務教育学校)
- 児童生徒数 計 8 名
  - 前期...6名(1年生1名、4年生1名、5年生2名、6年生1名)  
(学び直しとしての聴講生1名)
  - 後期...2名(8年生2名)
- 令和5年度、大熊町にて学校再開

〔子どもたち一人一人が自分の学びをデザインし、  
好きなことに夢中になれる授業〕



# 【実践紹介】

- シームレスな教育環境
- 探究的な活動の充実
- 自己決定の尊重
- その道のプロと触れ合い、肌で感じ取る学び

# シームレスな教育環境

〔 幼児教育と義務教育との連携 〕

義務教育学校の教員の  
専門性を保育の場に...



# 〔 異年齢・世代間交流 〕

年齢や立場の枠を超えて

共に学び合う



# 探究的な活動の充実

## 学校の中の社会課題の解決





# 現段階での学校の中の社会課題

- 産卵箱にどうしたら卵を産んでくれるか？
- 鶏のエサ代を何とか工面する方法はないか？
- 朝方4時頃から鳴く「コケコッコー」をどうしたらいいか？
- 鶏が会津の冬をどう乗り越えるにはどうしたらいいか？

等々

# 正解のない学び

→ 教員も共に学ぶ (伴走者)  
(ファシリテーター)

→ OODAループの実践

Observe(観察) → Orient(状況判断)

Decide(意思決定) → Act(実行)

→ その時点での最適解に到達

## 自己決定の尊重

- 教育活動の様々な場面で、教員がすぐに手を差し伸べるのではなく、子ども自身がじっくりと考え、自己選択・自己決定する経験を数多く経験している。
- 教員が考えた時間割ではなく、子どもたち一人一人の考えをもとに時間割を作成したり、単元テストの日程を組んだりして、学習を進めている。



# 時間割の作成

～ 時間割は **誰のもの** なのか ～





時間割は

子どものももの

でなくてはならない

# 《 子どもたちの姿から 成果 ① 》

## (学習者が学習を進める様々な方法の高まり)

- **柔軟的方略**: 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動
- **プランニング方略**: 計画的に学習に取り組む活動
- **作業方略**: ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動
- **認知的方略**: より自分の理解度を深めるような学習活動
- **努力調整方略**: 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

# その道のプロと触れ合い、 肌で感じ取る学び

・ 植松 努 氏

～ 思うは招く～



公益資本主義  
フォーラム

株式会社 植松電機  
代表取締役  
植松 努 氏

だいじなのは  
現金よりも  
知恵と経験と人脈



<https://youtu.be/saQKMP4bPFc>

# ・ 室屋 義秀 氏

「ワクワクを見つければ、自分自身の力を引き出すことができる」

「大熊にはチャンスしかない。何でもできる」



避難先若松の  
学び舎ゆめの森

会津若松市河東町にある大熊町の義務教育学校「学び舎(ゆ)ゆめの森」は8日、エアロバティック・パイロット室屋義秀さん(福島市在住)を招いた「空ラボワークショップ」を開いた。

室屋さんは講演で「ワクワクを見つければ、自身の力を引き出すことができる」と語った。来年には、児童生徒らが大熊

エアロバティック・パイロット  
室屋さん児童生徒に講演

町内で新生活をスタートさせる予定。室屋さんは「大熊にはチャンスしかない。何でもできる」とエールを送った。

ワークショップでは、児童生徒が組み立てキットで飛行機を作った。室屋さんが描いた大型のエアート作品もお披露目した。

作品は計64枚の絵を貼り合わせた。児童生徒、教職員が協力して制作した。

「大熊にはチャンスしかない。何でもできる」

室屋さん(左)と飛行機を飛ばす児童生徒

# 《子どもたちの姿から 成果②》

(非認知能力の育成 特に、自分ならできる！)

## 非認知能力

- 自己認識: やり抜く力、**自己効力感**、自己肯定感など
- 意欲: 学習志向性、やる気、集中力など
- 忍耐力: 粘り強く頑張る力など
- セルフコントロール: 自制心、理性、精神力など
- メタ認知: 客観的思考力、判断力、行動力など
- 社会的能力: リーダシップ、協調性、思いやり
- 対応力: 応用力、楽観性、失敗から学ぶ力など
- クリエイティビティ: 創造力、工夫する力など



好きがあれば、大丈夫





月曜日に学校に行きたくなる学校



ご清聴ありがとうございました。